

1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）

1.1. 技術の目的

敷地外、例えば国道沿いや県道沿いに、遮水壁を設置することにより、発電所内の汚染水と地下水との混合を抑制する。



遮水壁設置例—国道、県道—

1.2. 提案内容の特徴

敷地外山側に遮水壁を施工した場合、以下のメリットがある。

- ・ 山側の方が沿岸に比較し堆積層が薄く、遮水壁を地下深くまで施工する必要がない。
- ・ 遮水壁付近で地下水をポンプアップしても、汚染地下水が逆流しない。
- ・ 遮水の多重化により、原子炉建屋周辺の遮水設備の負荷（地下水凍結のためのランニングコストなど）を軽減できる。
- ・ 原子炉建屋等から離れたエリアに設置するために、原子炉建屋付近への影響が低い。
- ・ サイト内遮水壁設置工事に比較し、施工のための作業員の被ばく管理が、容易である。

1.3. 手順

(1) 遮水壁設置候補地の抽出

—敷地外において遮水壁を設置可能な場所を抽出する。

(2) 遮水壁設置場所の検討

－地下水流動解析により、遮水壁を設置する場所・範囲を設定する。また、設置した場合の効果、副次的な影響について検討する。

(3) 遮水壁の仕様検討

－遮水壁の深さ、材料等について、複数の仕様案を検討し、発注のための仕様書を作成する。

2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）

・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）

・開発・実用化に向けた課題・留意点

- －設置可能場所の選定方法の確立
- －設置場所近隣住民の方々への説明
- －設置後の地下水流れの予測評価
- －コスト評価

・その他（特許等を保有している場合の参照情報等）